栽培漁業の推進（魚類の標識放流）

1．目　的

放流魚の中間育成技術の修得、歩留り向上、栽培漁業の啓蒙。

2．対　象

糸満漁協・伊江漁協・座間味漁協

3．協力機関

水産振興課・栽培漁業センター・水産試験場

4．経　過

(1)　糸満漁協

ハマフエフキの放流用種苗としてハマフエフキ稚魚の配布がないため、7月22日に養殖用として配布された稚魚を養殖業者から買い上げ、10月1日にハマフエフキ稚魚の鰭抜き作業を実施した。糸満漁港内の海上生簀施設において漁協組合員30数名の参加により8,334尾（平均尾叉長86.2㎜）全数の左腹鰭を抜く作業を行った。10日経過後の10月10日に実施された南部豊かな海づくり大会で数10隻の漁船に稚魚を移し糸満漁港沖に放流された。

(2)　伊江漁協

伊江漁協青年部がスジアラの放流を目的に伊江漁港内において、スジアラの中間育成を実施した。稚魚は栽培漁業センターから平成11年10月20日に2,640尾と11月2日に500尾合計3,140尾が配布された。翌日から稚魚の飼育を開始するも斃死が相次ぎ、水試へ病魚サンプルを数回持ち込み斃死の原因究明をお願いした。また、投薬種類と投薬方法の指示を受け治療対策を繰り返したところ平成12年1月26日現在千数百尾生残、鰭抜きサイズの大きさに成長したことから、平成12年2月2日に伊江漁港内中間育成場で青年部を中心にスジアラの左腹鰭の鰭抜き作業を実施した。その結果、鰭抜き尾数は1,078尾、歩留まりは34.3％、尾叉長平均は93.6㎜であった。

収容当初からだらだら斃死が続き、水温下降期に入っても少尾数の斃死が有り、薬剤投与も数回実施してきたが、大量斃死の予防はできたものの飼育の困難性が伺える。中間育成は初めてであり来年度以降継続していくことにより中間育成歩留まりの向上が期待出来る。

(3)　座間味漁協

平成11年10月21日にスジアラ稚魚を栽培漁業センター→糸満漁港→座間味村阿嘉島経由で約2,500尾（平均60㎜）海上輸送して中間育成した。

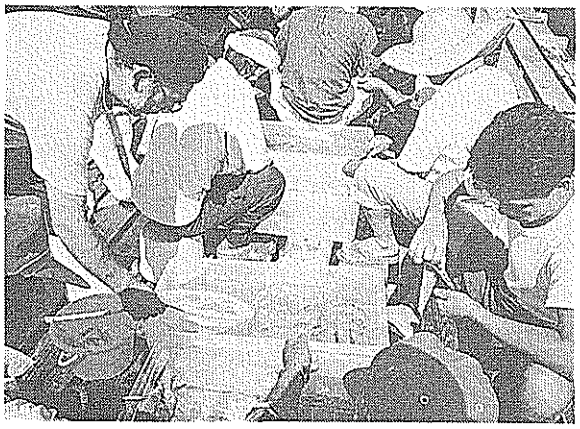
平成12年3月24日に阿嘉漁港内で中間育成中のスジアラを取り上げスジアラ標識装着作業（座間味漁協：組合長他5名）を行い右腹鰭を抜去し生簀へ戻した。尾数は263尾、大きさは尾叉長平均95㎜であった。4月上旬頃座間味島周辺海域に放流予定。

(4)　渡嘉敷漁協

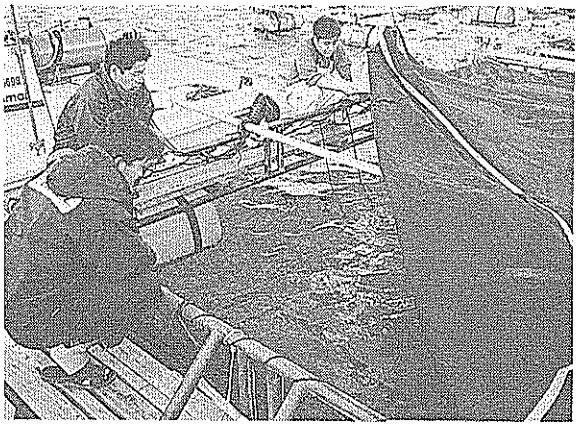
平成11年10月21日にスジアラ稚魚を栽培漁業センター→糸満漁港→渡嘉敷島経由で約2,500尾（平均60㎜）海上輸送して中間育成を開始するもその後魚病の発生、酸欠事故等により全滅したため、放流することができなくなった。

4名組、3班に分かれて鰭抜き作業の開始
（伊江漁港内）

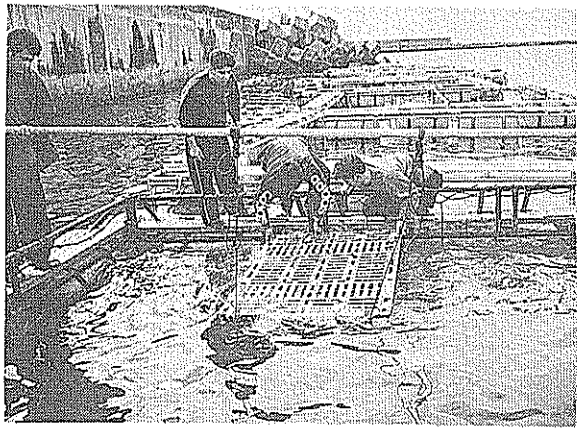
ハマフエフキの鰭抜き作業、水産高校生が大活躍
（糸満漁港内）



ハマフエフキの鰭抜き作業（糸満漁港内）



中間育成施設の天井網を除去（伊江漁港内）



生簀内のシェルターの除去
（1m×1.2mの大きさ・2基）

生簀網をしぼりこみ、鰭抜き作業の準備
（後方に見えるのはイージマタッチュー）